

タイにおける観光産業の概況(その2) ～コロナ禍の影響と回復動向について～ 一般調査報告書

要旨

各国で新型コロナ対策に係る渡航規制の緩和が進み、観光産業にも回復の兆しが見られます。世界的な観光大国であるタイでは、長引くコロナ禍で観光産業に大きなダメージを受けましたが、ようやく街中に外国人観光客が戻ってきました。また、タイから日本を含む海外へ旅行するニーズも再燃しつつあります。そこで今回のレポートでは、①タイの観光産業に対するコロナ禍の影響と最近の回復動向を整理するとともに、②タイの観光や日本向けインバウンド業界に詳しい株式会社スイム代表の後潟佑哉氏にお話を伺いました。

1. タイの観光産業に対するコロナ禍の影響

人気観光地であるタイには世界中の観光客が訪れており、2019年には海外からの年間観光客数が4,000万人弱に達していました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う渡航制限を受け、海外観光客数は激減。1月から3月中旬まで海外旅行が可能だった2020年は670万人、年間を通して海外との自由な往来が制限された2021年には43万人にまで落ち込みました(図1)。

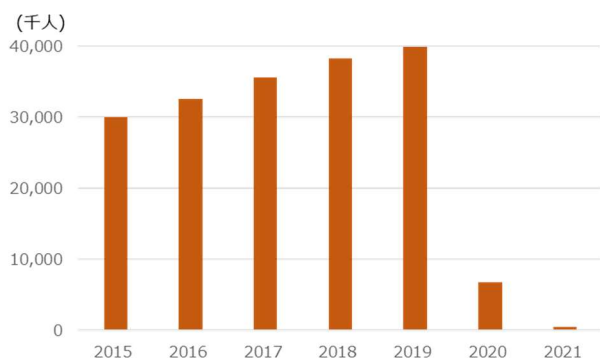


図1 タイにおける外国人観光客数の推移
出所:タイ政府観光・スポーツ省

タイでは地理、文化、経済などの類似性を踏まえ、チェンマイ、チェンライなどが代表的な北部、バンコクを含む中部、プーケットなどが有名な南部、クメール遺跡が残る北東部の4地域に分類されることが一般的です。図2で観光客数における外国人観光客の割合について、地域別推移をまとめました。まず、地域によって外

国人観光客比率に大きな差があることがわかります。

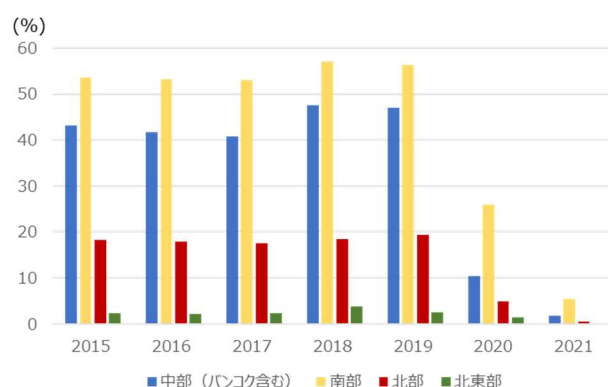


図2 タイにおける地域別外国人観光客比率の推移
出所:タイ政府観光・スポーツ省

コロナ前、南部では観光客の過半数が外国人、中部のそれも4割を超えており、両地域が多くの観光客を集めていました。タイ国内に様々な観光地があるものの、海外からの観光客は世界的に有名なビーチリゾートや、東南アジアの代表的な都市であるバンコクなどに魅かれていることの証左です。当然のことながら、コロナ禍の影響を受ける2020年以降はこれら地域でも外国人観光客比率が大幅に低下しています。

次に、観光産業における収益の多くを占める宿泊施設に対する影響について述べます。図3では、地域別宿泊施設の稼働率と平均客単価の推移を示します。宿泊施設の稼働率は、好調な観光産業を反映してコロナ前まで右肩上がり。全地域で50%を上回っており、

中部及び南部で特に高い傾向でした。しかしながら、コロナ禍の影響が始まる2020年には全地域で40%を割り込み、タイ国内の行動規制も厳しかった2021年には全国で20%を下回りました。南部の宿泊施設における稼働率の落ち込みが他地域よりも厳しいのは外国人観光客への依存度が高いことを反映しているものと思われます。平均客室単価の推移では、コロナ前の南部地域の上昇傾向が目立ちました。こちらもコロナ禍の低下傾向は顕著で、元々の価格設定が安価な東北部の変動幅は小さいものの、南部の2021年値は2019年比で半額以下まで落ち込みました。宿泊施設によっては現時点でも休業しているところも多く、地域経済への影響は甚大です。

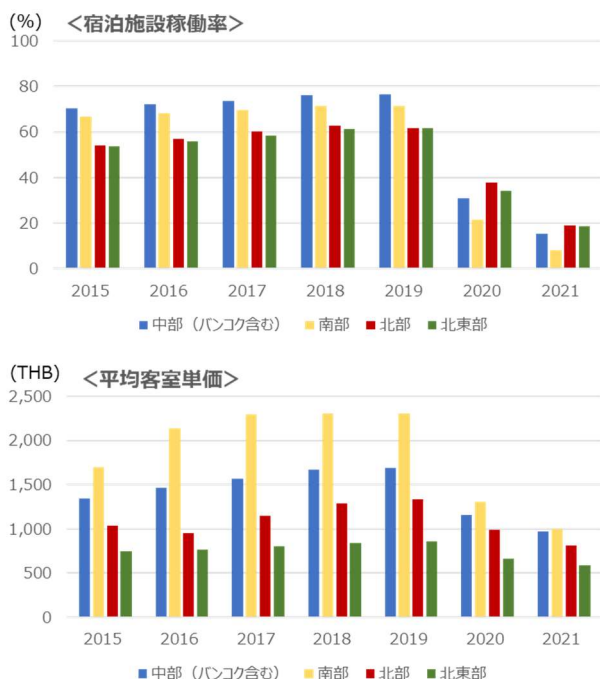


図3 タイにおける地域別宿泊施設の営業状況
出所:タイ政府観光・スポーツ省

次に、タイ空港公社が公表している主要6空港(スワンナプーム、ドンムアン、チェンマイ、ハジャイ、プーケット、チェンライ)の運航実績から、月次レベルでのコロナ禍の影響を分析します(図4)。2020年3月末の活動制限を受け、国際線、国内線ともに運航が激減しました。タイ国内では2020年を通して比較的コロナ感染がコントロールされていたため、国内線は6月頃からフライト数、利用者数ともに回復傾向が見られました。その後、国内線の運航はタイの感染拡大・縮小に応じて増減を繰り返しており、2021年前半はデルタ株の流行

に伴い減少、その後は回復が続いています。

国際線は貨物便の運航が必要なため、少数のフライトが継続されました。海外からのコロナウイルスの流入を防ぐため、タイでは2020年3月26日より外国人の入国を原則禁止しました。その後、労働許可証保有者のみ入国可、旅行者であっても入国を認めるなど、徐々に入国制限を緩和してきました。ただ、海外からの渡航において一番影響の大きい入国時の隔離措置は、約1年に渡り14日間、感染状況に応じて期間が短縮されたり14日間に戻されたりしつつ、2021年10月頃まで続きました。そのため、国際線の利用者数は1カ月あたり数万人の状況が続きました。

ワクチン接種が始まると、地域住民に優先的なワクチン接種を実施した上で、2021年7月より、観光産業への依存度の大きなプーケットなどで優先的に外国人旅行者を受け入れる試み“サンドボックス制度”を実施。そして2021年11月にはワクチン接種完了者に対する隔離なし入国を認めるTest & Goが開始されます。オミクロン株の拡大による中断を経て、2022年5月から入国時のPCR検査が不要に、7月以降は入国前の申請「タイランドパス」も不要になるなどコロナ前の運用に近づいてきました。そのため、国際線の利用者数及びフライト数も徐々に回復傾向です。



図4 タイ主要6空港の運航状況
出所:タイ空港公社

最後に訪タイ外国人の国・地域別推移を図5及び表1に示します。これは、図4の国際線利用者数の半数とほぼ同様の全体推移です。コロナ前の2019年12月時点で訪タイ外国人のシェアはASEANが28%、中国が21.6%、この両地域・国で約半数を占め、ロシア、インド、韓国、日本の順で続きました。ASEANの中ではマレーシア、シンガポール、ラオス、カンボジアなどからの訪タイが目立ちました。

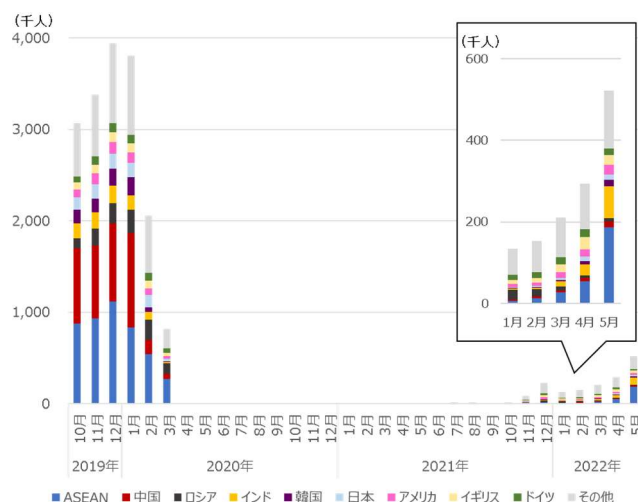


図5 訪タイ外国人の国・地域別推移
出所:タイ政府観光・スポーツ省

表1 訪タイ外国人の国・地域別推移

国・地域	2019年12月シェア	2022年5月回復率
ASEAN	28.3%	16.7%
中国	21.6%	1.7%
ロシア	5.6%	3.2%
インド	4.8%	41.4%
韓国	4.7%	8.8%
日本	4.2%	7.2%
アメリカ	3.3%	18.5%
イギリス	2.8%	21.7%
ドイツ	2.5%	15.7%
その他	22.1%	16.3%

出所:タイ政府観光・スポーツ省

注:回復率は2019年12月と2022年5月の比率

中国で新型コロナの感染が確認された2020年2月以降、最初に中国からの訪タイ者数が大きく減少し、同年4月には各国の渡航制限で世界中からの渡航がストップします。昨年末からの回復傾向は国・地域によって異なります。

従来2割以上のシェアを有していた中国は、ゼロコロナ政策を維持していることから5月時点の回復率が1.7%と限定的です。コロナ前のシェアが大きかっただけに、中国人旅行者の動向がタイの観光産業におよぼす影響は大きいです。回復が顕著なのはインドで、バンコクの街中でもインド人観光客を多く見かけるよう

になりました。ASEAN域内でも出入国の手続きがコロナ前の状況に近づいており、タイから周辺国へ海外出張に出かけることも普通となってきました。ロシアは他の国・地域よりも早いペースで観光客の来タイが増加していました。しかしながら、ウクライナ侵攻後は減少傾向です。侵攻直後には航空便の欠航や決済システムの停止で帰国できないロシア人に対するタイ政府の支援策も講じられていました。日本は水際対策が緩和されつつあるものの、本レポート執筆時点でも帰国時にPCR検査を求められるため、気軽に海外旅行に出かけられる状況になく、訪タイ者はビジネス目的の出張などが主だと推測されます。

市中ではオミクロンの変異株による感染拡大も騒がれていますが、タイ政府による観光産業の復活に向けた方針は継続しており、2022年通年で720万人まで回復すると予測するシンクタンク(2022.7.1、カシコン・リサーチセンター)もあります。

2. タイのインバウンド専門家へのインタビュー

タイの観光やメディア業界でご活躍されており、愛知県観光レップも務められている株式会社スィムの後湯佑哉氏にインタビューを行い、訪日観光客の誘致やタイの魅力的な観光地について語っていただきました。

Q.1 インバウンド業務を行うようになった経緯は?

テレビドラマ「深夜特急」を見て衝撃を受けました。当時19歳と若かったこともあり、テレビを見た翌日にはマレーシア行きの航空券を予約して、気が付いたら初めての海外旅行に出かけていました。恥ずかしながら最初はホームシックにもなりましたが、東南アジアのエネルギーが性に合っただけか、その後も日本と海外の往来を重ね、26歳の時にタイへの移住を決意しました。

旅行会社で日本人観光客向けの旅行手配や、現地情報誌の営業を担当しつつタイでの人脈を広げてきました。魅力的な観光地に関するブログや記事の執筆も行っており、タイ国政府観光庁、エアアジア、バンコクエアウェイズなどのインフルエンサーを務めたこともあります。これらの経験からタイ人観光客を日本へ送客するインバウンド関係の仕事が増えてきて独立。現在は

JR 西日本や愛知県の観光レップを受託しています。

コロナ禍で旅行関連の需要が少なかった期間には、タイ BL ドラマブームを受けて雑誌、テレビ、Web などのメディア向けコーディネートも行ってきました。

Q.2 タイにおけるインバウンド市場の状況と愛知県観光レップの取組は？

日本政府が6月10日から海外団体ツアーの受入れを表明すると同時に、旅行会社や日本政府観光局(JNTO)バンコク事務所への問い合わせが殺到するなど、コロナ禍にあってもタイからの訪日熱は冷めていません。少し前までタイから見た日本は「アジアの中で経済発展した憧れの地」でしたが、当地の急速な経済発展や円安を背景に「コストパフォーマンスに優れた旅行先」とも捉えられており、アフターコロナにはさらに多くの送客が期待されています。

自身が愛知県出身ということもあり、愛知県観光レップの仕事は“故郷に錦を”の想いで頑張っています。地域に外国人観光客を誘客するためには、京都の寺院、大阪のグリコサイン、岐阜の白川郷など、地名と代表的な観光地がイメージで強く結びつくことが不可欠です。従前から、愛知の観光地はタイ人観光客の中で知名度が低いことに問題意識を持っていました。そこで愛知県観光レップでは Facebook を活用した観光地の PR に力を入れています。タイ人の SNS 人気もあり、36 都道府県がタイ語の Facebook ファンページを運営しています。10 年以上継続しているページもある中、2020 年にスタートした愛知県ページ「Aichi Now」(図 6) は 27,000 を超えるファンページへの“いいね”を獲得し、都道府県ランキングの中で 15 位に上昇。2022 年度中に 10 位以内に食い込むことが目標です。直近 5 投稿の平均“いいね”数は 754 件で、全国平均 129 件を大きく超過している点も誇れる成果です。

SNS 上で PR 成果を上げるため、コンテンツや発信内容の選択を工夫しており、四季桜、藤、紫陽花、芝桜といった花にまつわる観光名所が好評です。祭りなど伝統文化に関する発信も強化したいところですが、タイ人の好みに合致するインパクトある写真の入手が課題となっています。今年オープン予定のジブリパー

クにも期待しているので、タイから訪問しやすいチケットの販売や積極的なプロモーションをお願いしたいです。



Aichi Now ไทย

6月6日 · 6

...

เทศกาลดอกไฮเดรนเยียคาทาทาฮาระออนเซ็น 🌸
คาทาทาฮาระออนเซ็น (形原温泉) เป็นหนึ่งในหมู่บ้าน
น้ำพุร้อนงามะโกรีที่เต็มไปด้วยทัศนีย... ม๊ตตมึง

翻訳を見る

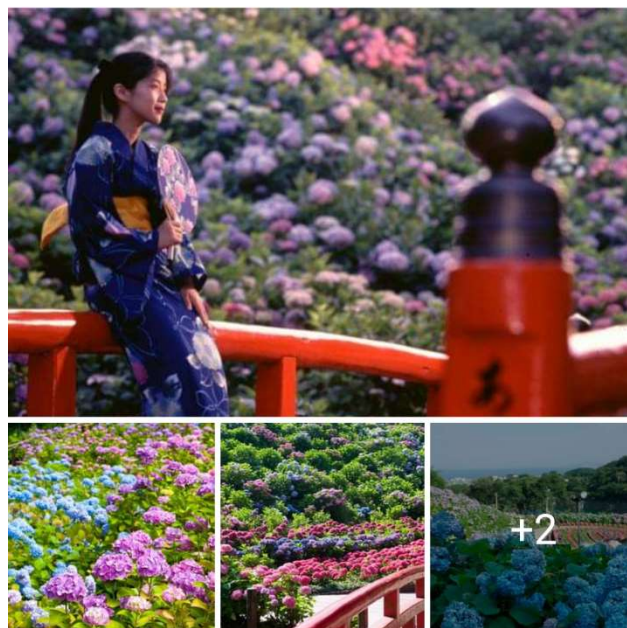


図 6 Facebook のファンページ「Aichi Now」

Q.3 タイでお勧めの観光地は？

タイには、山・川・海といった豊かな自然環境や、宗教や隣国との交流・衝突の歴史によって形作られた文化など地域ごとに異なる表情があります。プーケットのように国際的に有名なビーチリゾートもありますが、個人的にはリゾートでのんびりするよりも、その土地ならではの文化・歴史を満喫し、鉄道やバイクでの移動過程も楽しむ旅のスタイルが好みです。

在タイ 16 年の中で Top3 の観光地は、1 位:サンクラブリー、2 位:ランプーン、3 位:ハジャイです(図 7)。タイ中部のカンチャナブリー県、ミャンマー国境の街、サンクラブリーは、山岳民族モン族の村、世界で 2 番目に長い木造橋“モン・ブリッジ”、ダムに沈んだ集落などが有名で、信仰心の深い昔ながらの生活様式に触れられる点が気に入っています。ランプーンはタイ北部

の都市チェンマイから南へ 30 kmに位置し、11 世紀から 13 世紀にハリプンチャイ王国の都として栄えた街。ブッタの髪の毛が納められている“ワット・プラ・タート・ハリプンチャイ”は個人的にタイで 1 番好きなお寺です。タイ南部ソクラーン県にあるハジャイは、華僑が多い街で、中華街のノスタルジックな雰囲気が素晴らしいです。(※ソクラーン県は外務省の渡航危険情報が発令されている点にご留意ください。)

鉄道やバイクでタイの観光地を巡る動画を You Tube サイト「なんとかマハナコン」でも紹介していますので、ご興味あれば是非ご覧ください。



図 7 後湯氏お勧め観光地の様子

3. おわりに

基本的に夏しかないタイですが、3 月から 5 月の暑期、6 月から 10 月の雨季、11 月から 2 月の乾季の 3 つの季節があります。雨季といっても、日本の梅雨のように雨が降り続けることは少なく、1 時間から 2 時間程度の短い時間にバケツをひっくり返したような雨が降ることが一般的で、スコールは雨季のバンコクの風物詩です。問題は、スコールがいつ来るかを予測するのが難しいことです。もちろん、スマートフォンには天気予報のアプリケーションが入っていますし、帰宅前や外

出の予定があるときは、窓の外から雲の流れを確認することを怠りません。それでも最近は、夕方のスコールが多く、夕焼けが綺麗だなあと少しのんびりオフィスに残っていると、急に空が暗くなり、帰宅する時にはずぶ濡れになってしまうことが多々あります。日本では天気東から西へ移ろうことが多いですが、タイではどちらから雲が来るのか、はたまたどこで雲が湧くのか予測が難しく、雨雲レーダーを見ると自分がいる場所だけ真っ赤な雨雲があるときもあります。

服が濡れる程度であれば影響は少ないですが、長めのスコールは時として道を冠水させます(図 8)。チャオプラヤ川に囲まれた地形柄、水が溜まりやすいのは致し方ないですが、車通りの多い時間帯の冠水は渋滞をさらに酷くさせます。被害は人間だけでなく、下水道の住民(ゴキブリやネズミ)にもおよび、濡れた彼らを目にすることも。徒歩で移動することの多い自分は、(傷口から病原菌が入る恐れがあるので普通は避けますが)時として冠水した道を歩かざるを得ないこともあります。臭いが気になる下水や所々に落とし穴のある路面状況を考えて、濁った水で足元が見えない中を歩くのは恐怖です。



図 8 冠水したバンコクのメインロード

本資料は、参考資料として情報提供を目的に作成したものです。

バンコク産業情報センターは資料作成にはできる限り正確に記載するよう努力しておりますが、その正確性を保証するものではありません。

本情報の採否は読者の判断で行ってください。

また、万一不利益を被る事態が生じても当センター及び愛知県等は責任を負うことができませんのでご了承ください。